



JSQC ニュース

No.360

発行 一般社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

1-トピックス JAS法改正と期待される効果

2-私の提言 学会参加のすすめ

2-支部の研究会〈関西〉

3-中條武志氏デミング賞本賞を受賞／デミング賞／8月の入会者紹介

4-各賞表彰／論文募集／行事案内／事務局からのお知らせ

JAS法改正と期待される効果

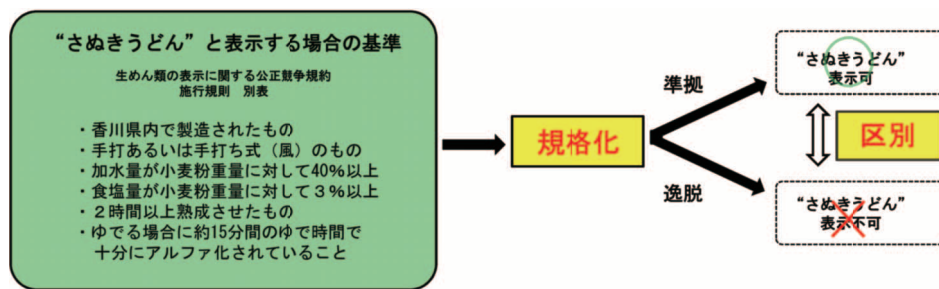
東京都農林総合研究センター 食品技術センター 佐藤 健

1. はじめに

食のグローバル化が加速している状況のもと、国内の食品製造関連事業者等では海外展開が重要な課題となっています。食文化や商慣行が異なる海外市場において規格や認証を活用することが、日本産の飲食料品に馴染みのない取引相手にその品質や特色、事業者の技術や取組みなどの「強み」をアピールする重要かつ有効な手法のひとつとなります。我が国における飲食料品の規格として日本農林規格（JAS規格）があり、農林物資の規格化等に関する法律（JAS法）で定められています。平成29年6月16日には取引の円滑化と輸出力の強化に資するために改正JAS法が成立、6月23日付けで公布されました。

2. 改正のポイント

改正前のJAS法は、飲食料品などモノの「品質」を対象としていました。今回の改正では対象が拡大され、モノの「生産方法」（プロセス）、「取扱方法」（サービス等）、「試験方法」などが対象に含まれました。これに伴い、広告や試験成績書等にJASマークを表示することができるなど、JASマークの表示に関する新たな仕組みが導入されています。あわせて、独立行政法人農林水産消費安全技術センター（FAMIC）が国際規格の認証機関を認定できるようになり、国内事業者が国際規格の認証を取得し



やすくするための環境整備がなされました。法律の名称も「日本農林規格等に関する法律」に改称されています。

3. 改正で期待される効果

我が国には、その土地の文化とも呼べる伝統的な飲食料品が根付いている地域や地方が数多くあります。和食がユネスコの無形文化遺産に登録されたことが示しているように、日本の食文化はワールドワイドに注目を集めており、我が国の飲食料品は「ブランド化している」と言っても過言ではありません。このような背景から、我が国の飲食料品の「類似品」が数多く出回っています。これら類似品の品質は様々であり、品質の劣る品物が少なからずあります。日本産品の「ブランド性」を守りつつ、取引を円滑に進め、輸出力を強化していくためには、本物と類似品を明確に区別する仕組みを構築する必要があります。「さぬきうどん」を用いて改正ポイントのひとつである生産方法への対象拡大に関して説明します（図参照）。

「生めん類の表示に関する公正競争規約施行規則別表」には、「さぬきうどん」と表示する場合の基準が定められています。仮にこの基準が「さぬきうどんの生産方法」に関するJAS規格と設定されたとします。生産方法が限定されることから、規格品と類似品の区別が容易となります。これにより、この規格から逸脱して製造された製品は「規格品のさぬきうどん」として流通できなくなります。以上から、この生産方法による「さぬきうどん」は、流通に「有利な立場」となる効果が得られると期待されます。

4. おわりに

日本産の飲食料品について国際市場における取引の円滑化と輸出力の強化を図るためには、規格を含めたシステムをいかに有効に機能させることができるかが鍵となります。そのためには、JAS規格に対して国際市場の信頼を獲得することやJASマークそのものがその信頼の「証」とあると国際市場に認識させることなど、戦略的かつ積極的にJAS規格の国際化を推進する必要があります。

● 私の提言 ●

学会参加のすすめ

千寿製薬(株) 榎 秀之



今年5月の臨時総会で会員規定が改定され、正会員の区分として「シニア」と「永世シニア」が設けられた

とのことです。永きに亘り学会に貢献されてきた先輩方には、今後とも温かく、ときに厳しく活動を見守っていただくことをお願いするところです。

多い時に3千人を超えていた正会員は昨年9月に2千人を割り、今年7月時点では1940人となっています。会員数の減少は食い止めたい数字ではありますが、こ

こでは、「産」の立場で学会参加について考えてみたいと思います。

専門分野について外の世界と接点を持ち、技術を競い諸問題について語るとは意義深いことです。自分の存在が社外でも認められることは、特に「産」の立場で仕事をする技術者にとって動機づけになると感じています。一方で製品を出すことが第一義的に求められるため、目先の成果を求めざるを得ない現実もあります。また経費削減の面で育成経費が対象になりやすいことも否定できません。

その状況で学会活動に対する匙加減には日々悩まされてきました。学会とのかかわりに短期的な成果を求めることはできませんが、学会活動の利点に目を向け、

特に若い技術者には機会を与えたいと思っています。昨今の品質にまつわる不祥事を鑑み、日本品質管理学会を通して社外の方々と品質問題を語り合うことは世代を問わず必要なことと感じています。

私の所属する関西支部では、実用的な問題解決法に関する研究テーマを2つ有し、また研究発表会では企業からの発表を促す事例セッションや学生発表者の表彰制度を導入し、若い会員にも活躍の場を提供してきました。発案者の黒木学氏(現、横浜国立大)は論文誌編集委員長として優秀発表賞と投稿区分の新設により、学会のさらなる活性化を目指されています。私自身、支部イベントを振り返るとき、参加者数について目が行きがちですが、年齢区分などにも目を向けるべきだったと自戒するところです。

若い技術者に多く学会に参加していただきたいと願って、雑感を述べさせていただきました。支部活動の一端を担う者として、微力ながら尽力したいと思います。

支部の研究会 〈関西〉

ダイナミックロバストマネジメント (DRM) 研究会

パフォーマンス向上のための現場のガバナンス(光物)

金子 浩一(金子技術士事務所)、中島 健一(神奈川大学)

TQMは、あらゆる業界において現場の問題、経営的課題を顕在化させ、それを解決する手法として体系化され、定着が図られてきた。しかし、昨今、日本の代表的な大企業であるT、N、K、S社においてずさんなQC、マネジメントシステム(MS: Management System)とも取れる大きな問題が発生し、毎日のように新聞紙面に取り上げられている。何故このような甘くゆるいQCになったのか。「品質問題は会社の命とり」と昔から言われている。「顧客は誰であるか」を現場は強く意識し、次工程はお客様であることを忘れてはいないか?という点が危惧される。これまでの「問題が起こってから手を打つ後手管理」ではなく、変化する経営環境の先を読み、現場をよくみて、問題が発生する前に現場に対する強いガバナンスを効かし、ダイナミックなアクションを行う頑健な(ロバスト)マネジメントが求められているといえる。

本研究会では、これまで研究してきた「科学的先手管理七つ道具(SE7)」に基づき、企業経営に有効なMSとして実地に検証されてきた日本的なTQMや、高度な先進技術

(IoTなど)の活用、ヒューマンエラー、モノづくりのレベルアップ策等に関して議論している。組織のQC、MSの強靱化を図り、品質管理学会が培ってきた数々のQC技術をベースにし、現場における「光物」としてのガバナンスの構築、状況に応じたダイナミックな課題解決アプローチを顧客の視点で体系化することを目的に研究を行っている。具体的な内容は以下の通りであり、興味ある方は、関西支部事務局まで問い合わせを頂ければ幸いである。

- (1) 2～3カ月に1回の割合で研究会を開催する。研究会では産業界、学界から問題提起をいただき、ディスカッション、事例発表を行っている。
- (2) TQM/ISO/SE7活用についての提言や実践例を体系的にまとめ、特に2015年改訂のISOとTQMのロバストな運用についての検討を行い、成果を広く公開する。
- (3) 外部有識者による先進事例等の講演会の実施
- (4) 横断的に他の学会研究者らとの交流を通じた学際的な問題発見と解決

中條武志・元本学会会長 今年度デミング賞本賞を受賞

第42年度・43年度本学会会長の中條武志氏が本年度のデミング賞本賞を受賞されました。同氏は1996年よ



り中央大学教授に就任し、現在に至っています。

本学会会長だけでなく、デミング賞審査委員会委員長、QCサークル本部副幹事長、ISO/TC176国内対応委員会委員長、日本適合性認定協会マネジメントシステム認定委員会委員長など、品質管理関連組織の要職を歴任してられました。

人に起因する事故・トラブルの未然防止に関する研究が同氏の原点です。その知見を、学会活動や社会活動を通じて「人の信頼性の向上」に関する学術の進展と組織における実践につなげていきました。

また、TQMの標準化に関して、「新版品質保証ガイドブック」の編纂や

各種JSQC規格の策定に中心的な役割を果たし、現在も取り組まれています。



本学会の会長在任時には、学会活動そのものや学会における研究活動の「見える化」を推し進め、品質管理に関する深い知識と情熱を持った専門家のためのコミュニティとしての位置づけを明確にしてきました。本学会としても、同氏の功績が認められデミング賞本賞を受賞されたことは大変名誉なことです。誠にありがとうございました。

デミング賞委員会（委員長 榊原 定征）において、2017年度のデミング賞大賞、デミング賞各賞、日経品質管理文献賞の受賞者が決定し、授賞式は11月8日経団連会館にて執り行われました。

1. デミング賞大賞

SCG Logistics Management Company Limited（タイ）

2. デミング賞本賞

中條 武志 氏 中央大学 理工学部 経営システム工学科 教授

3. デミング賞

Ashok Leyland Limited, Hosur Unit II（インド）

CEAT Limited（インド）

4. 日経品質管理文献賞（文献名五十音順）

(1)「シリーズ<現代の品質管理> 5 現代オペレーションズ・マネジメント
－IoT時代の品質・生産性向上と顧客価値創造－」

圓川 隆夫 著

(2)「JSQC選書 27 サービス品質の保証

－業務の見える化とビジュアルマニュアル－」

金子 憲治 著

(3)「JSQC選書 26 新QC七つ道具

－混沌解明・未来洞察・重点問題の設定と解決－」

猪原 正守 著

2017年8月の入会者紹介

2017年8月21日の理事会審議において、下記の通り正会員14名、準会員1名、職域会員2名、賛助会員1社1口の入会が承認されました。

.....
（正会員14名） ○救仁郷 誠（富士ゼロックス）○山崎 幸二（五鈴硝子（香港））○當間 健明（名桜大学）○三保裕之（アルバック）○釜口 友希・西野 真弥（岩崎電機製作所）○渡辺慎（沖電気工業）○宮崎 太郎（NECソリューションイノベータ）○小林剛（日本バイリーン）○白石 淳一・遠藤 健（リコー）○石田 太（コニカミノルタ）○山際 敏道（KYB）○池谷 武志（東洋合成工業）

.....
（準会員1名） ○潘 宝燕（神戸大学）

.....
（職域会員2名） ○山本 博司（戸田工業）
○内山田 浩（アスモ）

.....
(賛助会員1社1口) ○アングルトライ
.....

正 会 員：1937名

準 会 員：58名

職域会員：46名

賛助会員：146社192口

公共会員：17口

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

各賞表彰

第47回通常総会において、第46年度品質技術賞2件、品質管理推進功労賞6氏の授賞および表彰が行われます。

【第46年度品質技術賞】

佐々木 市 郎 氏 (アルプス電気株)

『「JIS Z 9090」が適用できない場合の校正周期最適化ーピンゲージの場合ー』

著者：佐々木市郎／高文静／王喜鳳

「品質」46, 4, pp.95-100 (2016)

前 田 誠 氏 (前田コンサルティング)

『T法 (1) の考え方を利用した新しい回帰手法の提案』

著者：前田 誠

「品質」47, 2, pp.71-80 (2017)

【2017年度 品質管理推進功労賞】

上 窪 均 氏 (株)KMI

齊 藤 雅 也 氏 医療法人香徳会 関中央病院

須加尾 政 一 氏 Q & SGA研究所

鱈 谷 佳 和 氏 (株)村田製作所

橋 本 進 氏 元 (一財) 日本規格協会

山 本 和 芳 氏 積水化学工業(株)

行 事 案 内

●第47回年次大会・統計数理研究所(本部)

日 時：2017年11月25日(土)

10:00～11:10

通常総会／各賞授与式

11:15～11:30 会長挨拶

椿 広計氏 (統計センター)

11:30～12:05 新会長講演

小原好一氏 (前田建設工業)

12:05～12:20

「新投稿区分の創設について」

黒木 学氏 (論文誌編集委員長)

13:30～17:50 研究発表会

18:00～20:00 年次大会懇親会

参加費：(当日払いは別金額)

研究発表会

会 員4,320円 (締切後4,860円)

非会員8,640円 (締切後9,720円)

準会員2,160円 一般学生3,240円

懇親会

会 員・非会員 4,500円

準会員・一般学生2,500円

申込締切：2017年11月15日(水)

詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h291125_2

●第18回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ

日 時：2017年12月24日(日)13:00～17:30

会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎

定 員：200名

参加費：2,000円 ※当日払い

申込締切：12月18日(月)17:00

プログラム：

「安全文化とマネジメントシステム、リスクマネジメントの連携」

倉田 聡氏 (原子力安全推進協会)

「医療分野における安全文化の測定と醸成の取り組み」

種田憲一郎氏

(国立保健医療科学院)

「建設業におけるTQMの実践と全員参加の実現」

小原好一氏 (前田建設工業)

パネルディスカッション

コーディネータ：

中條武志氏 (中央大学)

詳細・申込：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h291224>

●第398回事業所見学会 (関西)

テーマ：川村義肢(株)における義肢・装具の製作工程と改善活動の取り組み

日 時：2018年1月31日(火)12:30～15:05

見学先：川村義肢(株) 大東本社

定 員：30名

申込先：関西支部事務局

詳 細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300131>

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟 東高円寺ビル内

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail：apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

関西支部：530-0004 大阪市北区堂島2-4-27

日本科学技術連盟 大阪事務所内

TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail：kansai@jsqc.org

事務局からのお知らせ

日本品質管理学会監修「JSQC選書28」好評発売中

●JSQC選書28 (152ページ)

書名：品質機能展開 (QFD) の基礎と活用
ー製品開発情報の連鎖とその見える化

著者：永井一志

判 型 等：四六判、並製本

定 価：1,600円 (税別) → 学会員特典価格：1,280円 (税別)

申込方法：http://www.jsqc.org/ja/kanren/jsqc_sensyo.html

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。